マルセイユ市に日本庭園がオープン
–神戸・マルセイユ姉妹都市提携 50 周年記念式典報告–

パリ事務所

姉妹都市交流 50 周年

神戸とマルセイユ[i]両市はともに古くからの有数の港であるという共通点から、1961 年に姉妹都市を提携して以来、半世紀に渡り相互に交流を行ってきました。

この間、交流 45 周年を迎えた 2006 年に神戸市長がマルセイユ市を訪問した際、マルセイユ市側が計画していた日本庭園建設について技術協力の依頼を受け、神戸市から３人の庭園技術者を派遣して設計などの指導にあたってきました。

マルセイユ市

両市交流 50 周年に当たる本年、両市の交流のシンボルとも言うべきこの日本庭園が完成し、そのオープニング式典が両市交流 50 周年を記念して、神戸市の小柴副市長及びマルセイユ市のゴーダン市長の立会いの下９月２日（金）に執り行われ、クレアパリ事務所もマルセイユ市の招待を受けて出席しました。

日本庭園オープニング式典

マルセイユ市のボレリー公園は地中海に面するプラド海岸にほど近い場所に位置し、園内を自由に散策をしたりジョギングをするなど市民の憩いの場となっています。このボレリー公園内の植物園に日本庭園がオープンしました。

式典当日の天気は快晴。南フランス特有の強烈な日差しの下で、式典は招待客など約 200 名のマルセイユ市民が参加し行われました。

式典では、最初にテープカットが行われ、続いて両市交流 50 周年を記念するプレートが披露されました。

式典の挨拶の中でゴーダン市長からは、まず東日本大震災についてのお見舞いの言葉が送られました。震災のニュースを聞き大変衝撃を受けたこと、直ちにマルセイユ市の消防隊を派遣するよう指示したこと、これはマルセイユ市民がいかに日本に対して心を寄せているかを証明するもの、その友情の証であると述べられました。

これに対し、小柴副市長は、マルセイユ市のいち早い支援の申し入れに対し感謝の意を述べるとともに、この日本庭園が末永くマルセイユ市民に愛されることを心から願いますと挨拶されました。また、阪神淡路大震災を経験した神戸市は、引き続き被災地の復興に向けて支援を続けるとの決意も述べられました。

テープカットの様子

（左：安井市議会議長、中央：小柴副市長、右：ゴーダン市長）

庭園開園を記念するプレート

庭園の設計にあたっては、日本庭園の様式を忠実に表現するよう心がけたとのこと。実際の設計にあたったマルセイユ市の担当者からは、この庭園は、自然のミニチュアを反映するだけではなく、人類の調和を表現するものでもあり、フランス式庭園の左右対称とは異なる左右非対称の構図は、ダイナミズムを表現するものであるとの説明がありました。

庭園に秘められた日本人の心を学ぶこと、その奥深い意義を学ぶことがとても難しかったと、マルセイユ市の公園担当のカラデック助役の言葉も式典挨拶の中で披露されました。

日本庭園

日本庭園の概要

- 面積：1,700 ㎡
- 使用した土：1,400 ㎥
- 使用した岩：308t
- 使用した木：約 330 本
- 川の長さ：約 40m
- 池の数：３面

ボレリー公園

９月３日及び４日の週末には、ボレリー公園内で折り紙や書道、生け花、茶道などをはじめとする様々な日本文化を体験するイベントが行われると同時に、マルセイユ市内の「2600 周年記念公園」では神戸市を紹介する「神戸展」が開催されました。

また、今後も文化行事に両市協力して取り組むことを確認し合いました。

今後に向けて

神戸・マルセイユ両市の交流は、日本とフランス両国の自治体の交流の中では最も古い歴史を持つ事例の一つです。50 年という長い期間に渡って交流を続けるためには、両市を結びつける共通点はもちろんのこと、お互いを気遣い心を寄せ合うというささやかな気持ちもその秘訣のように思われました。その気持ちが、震災発生直後のマルセイユ市側からの素早い支援の申し出や、日本庭園の建設に結びついたものと考えられます。

日本庭園に植えられた木々はまだまだ若木。これらの木々が育ち、訪れる市民が散策をより楽しめるようになるまでには、まだまだ時間がかかることでしょう。庭園内には近々茶室がオープンする予定があるとのこと。この日本庭園がマルセイユ市民に見守られながら、両市の 50 年の交流のように末長く成長を続けていくことを期待したいと思います。

（小林所長補佐　東京都派遣）

[i] マルセイユ市（Marseille）：フランス南部、プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール州の都市。ブーシュ・デュ・ローヌ県の県庁所在地。人口は約 85 万１千人。神戸市とは 1961 年７月２日に姉妹都市を提携した。